

# 血液透析患者における クエン酸第二鉄水和物の使用経験



(医)徳洲会 大垣徳洲会病院 透析センター

○中川 紀子 旭 恵次 中野 路子 清水 慎太郎 坂口 耕一郎 久富 俊宏  
野口 享秀

# 目的

透析患者においてCKD-MBD治療が予後に与える影響は大きい。

今回、新しい高リン血症治療薬である、クエン酸第二鉄水和物(以下クエン酸第二鉄と略す)を使用し、その有用性と鉄代謝における影響を検討した。

# 対象と方法

## <対象>

P=6.0mg/dL以上、フェリチン=100ng/mL以下、Hb=12.0g/dL以下を  
満たす27名であり、クエン酸第二鉄の有用性について検討した。

平均透析歴5.4年、平均年齢70.2歳、男性21名、女性6名

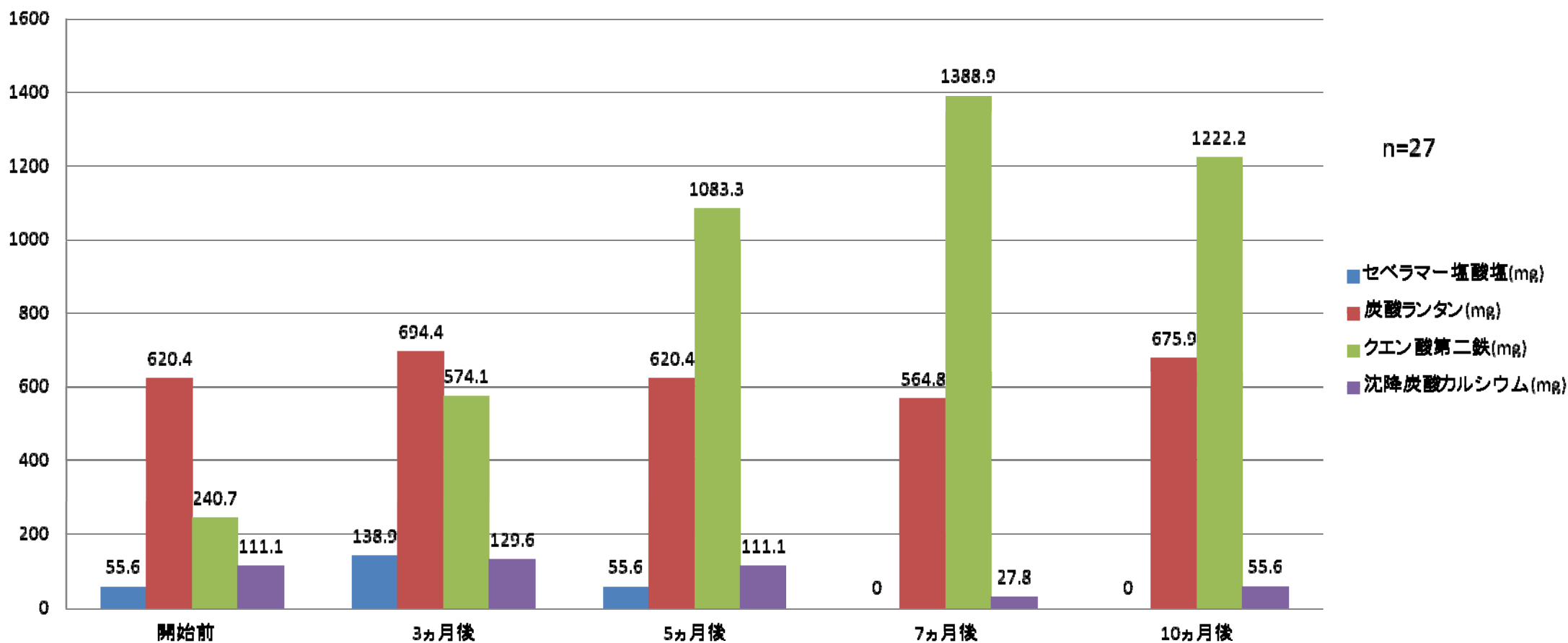
当院ではJSDTのガイドラインにより

補正Ca : 8.4~10.0mg/dL

P : 3.5~6.0mg/dL

Hb : 10.0~12.0g/dLでコントロールしている。

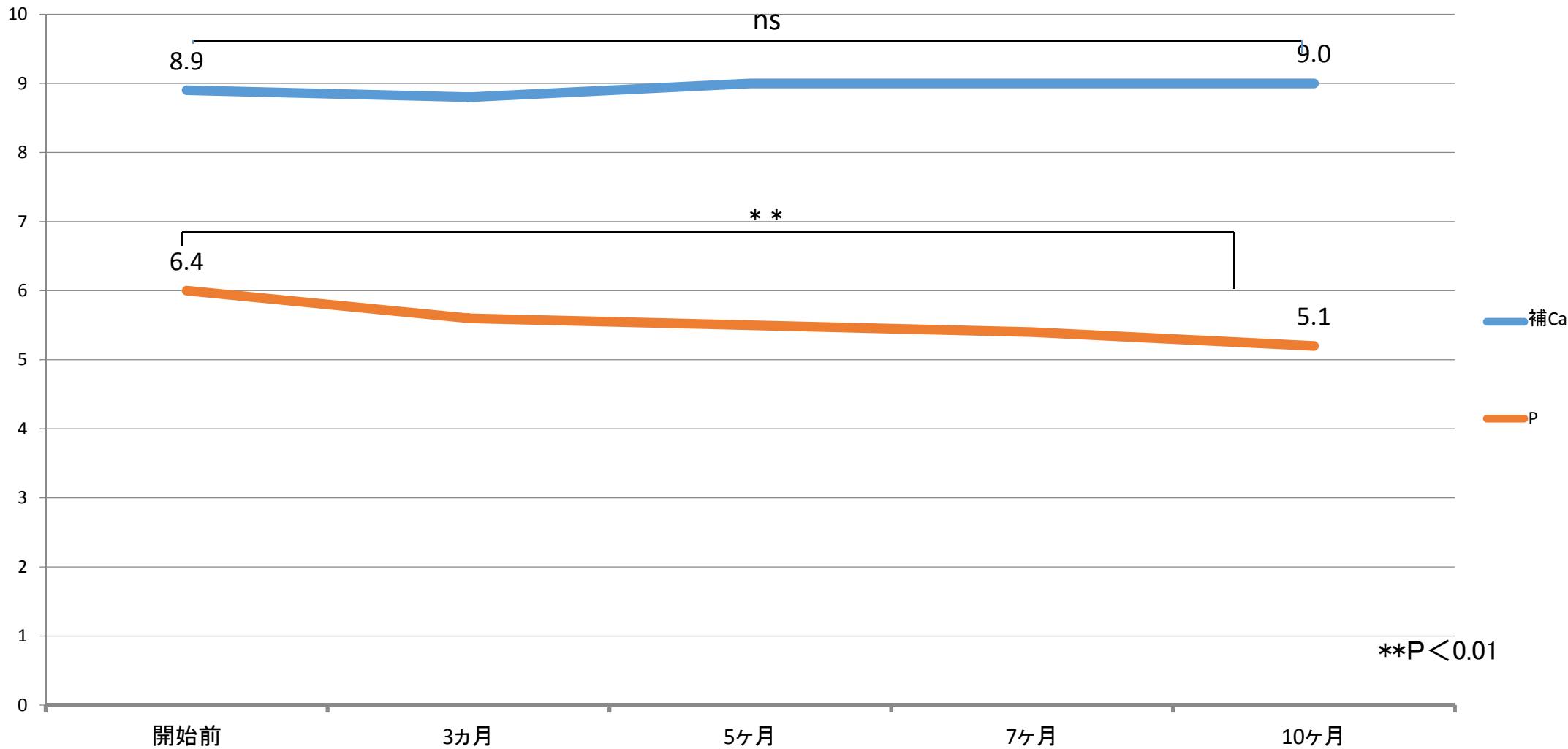
# クエン酸第二鉄開始時と投与10ヶ月後までの 高リン血症治療薬の平均投与量



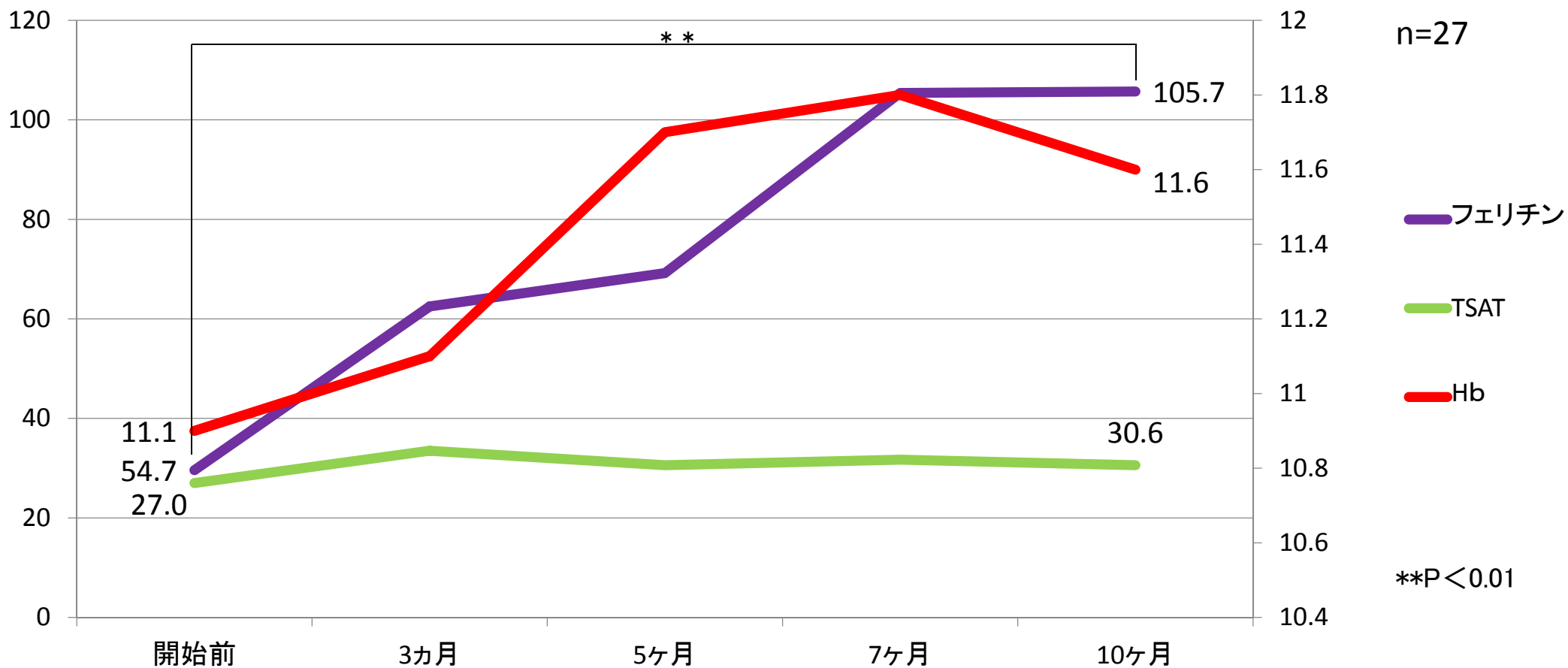
# クエン酸第二鉄開始前から10ヶ月までの経過

## 補正CaとP

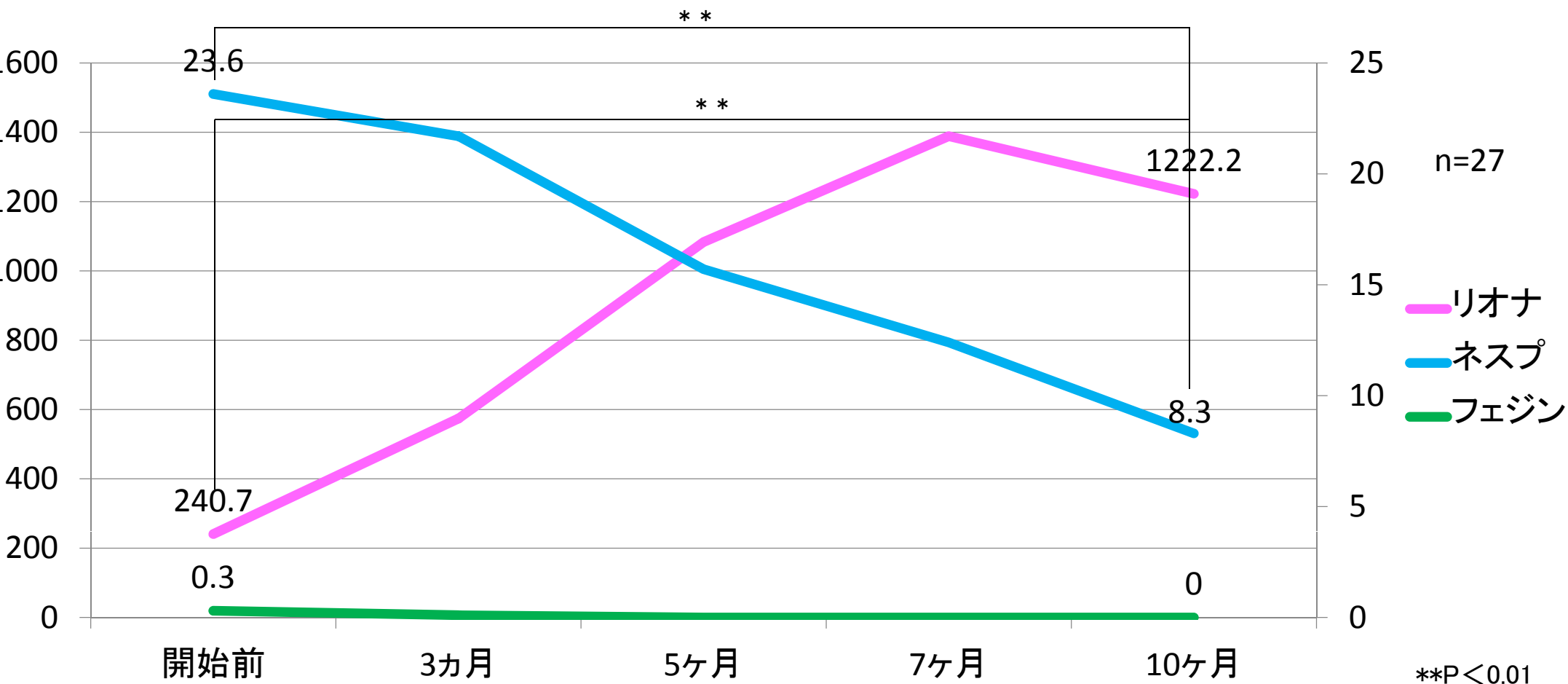
n=27



# クエン酸第二鉄開始前から10ヶ月までの経過 フェリチンとヘモグロビン

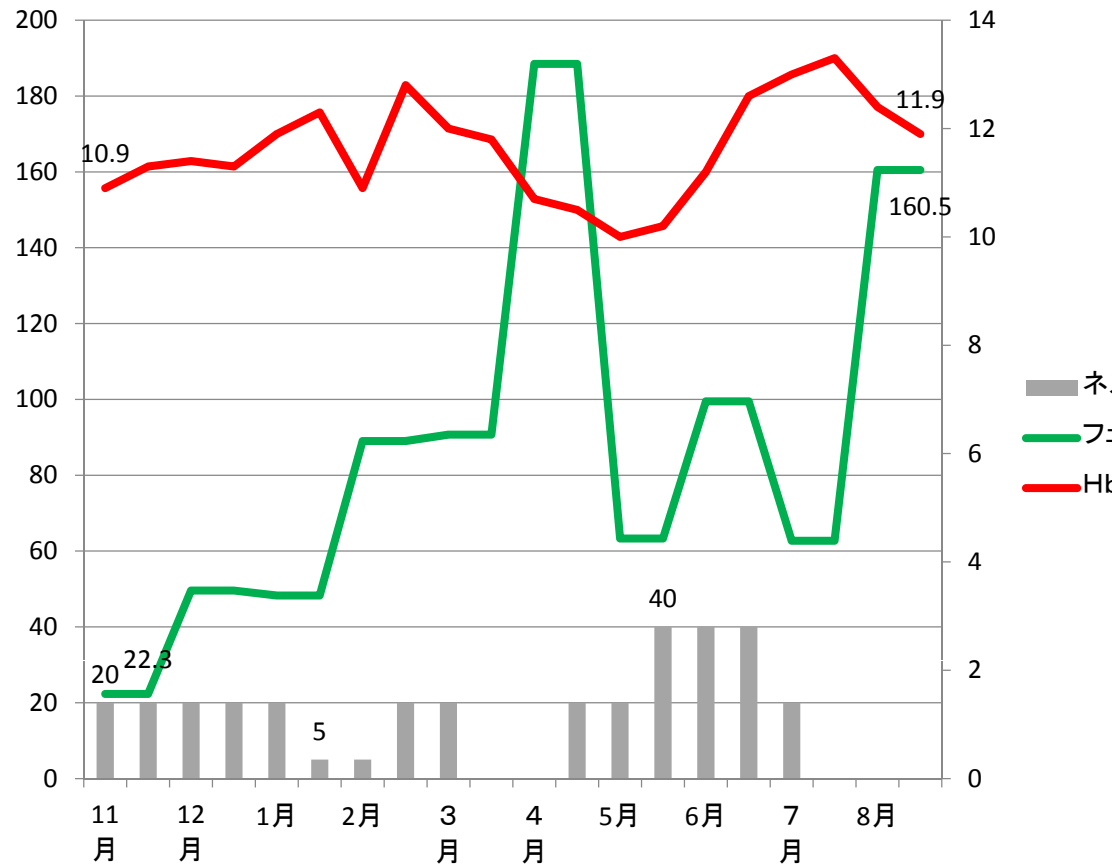
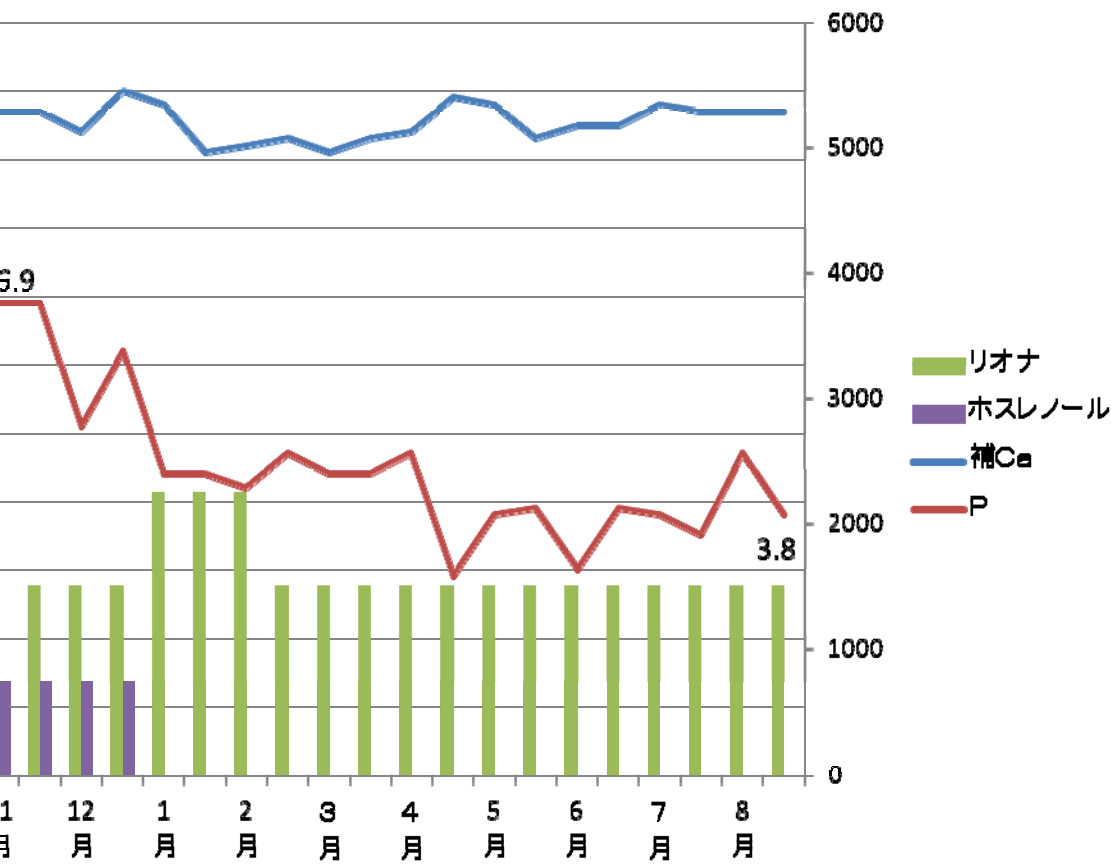


# クエン酸第二鉄開始前から10ヶ月までの経過 薬剤



# 症例1

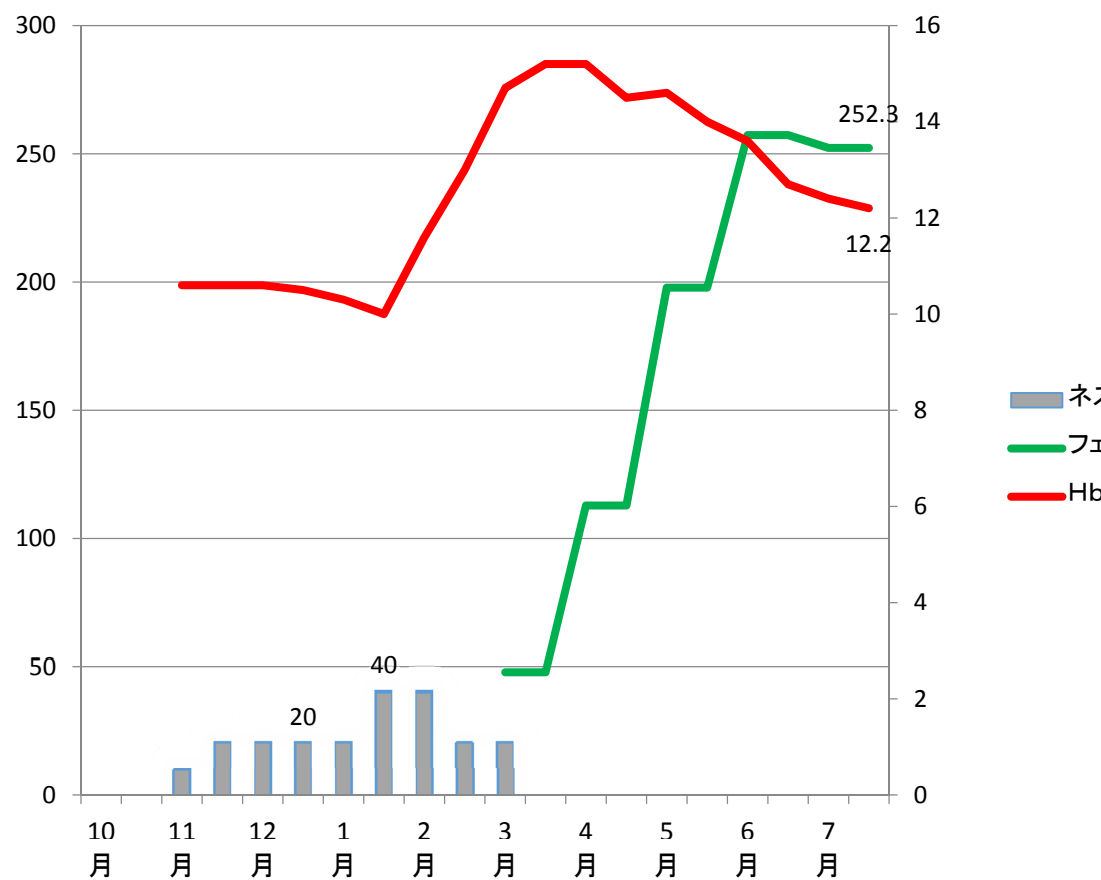
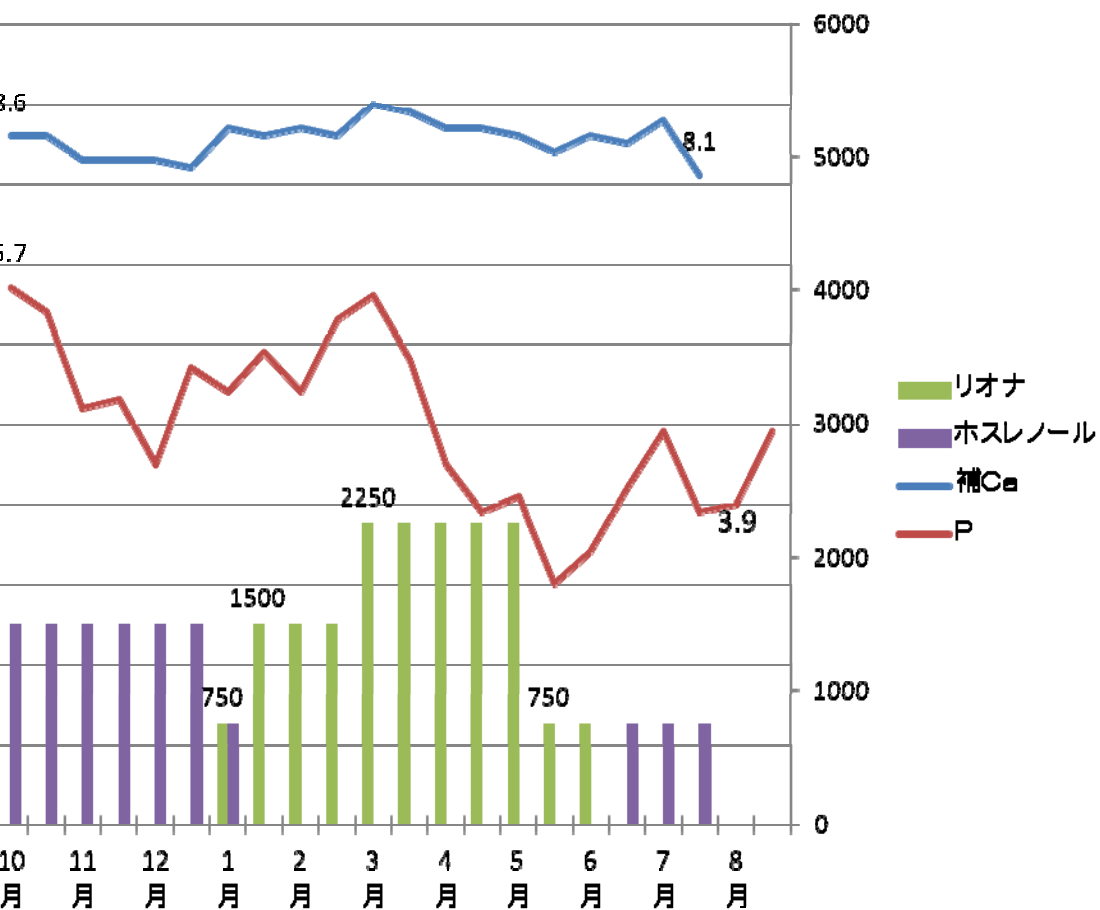
79歳 男性 原疾患：慢性糸球体腎炎 透析歴：2.8年





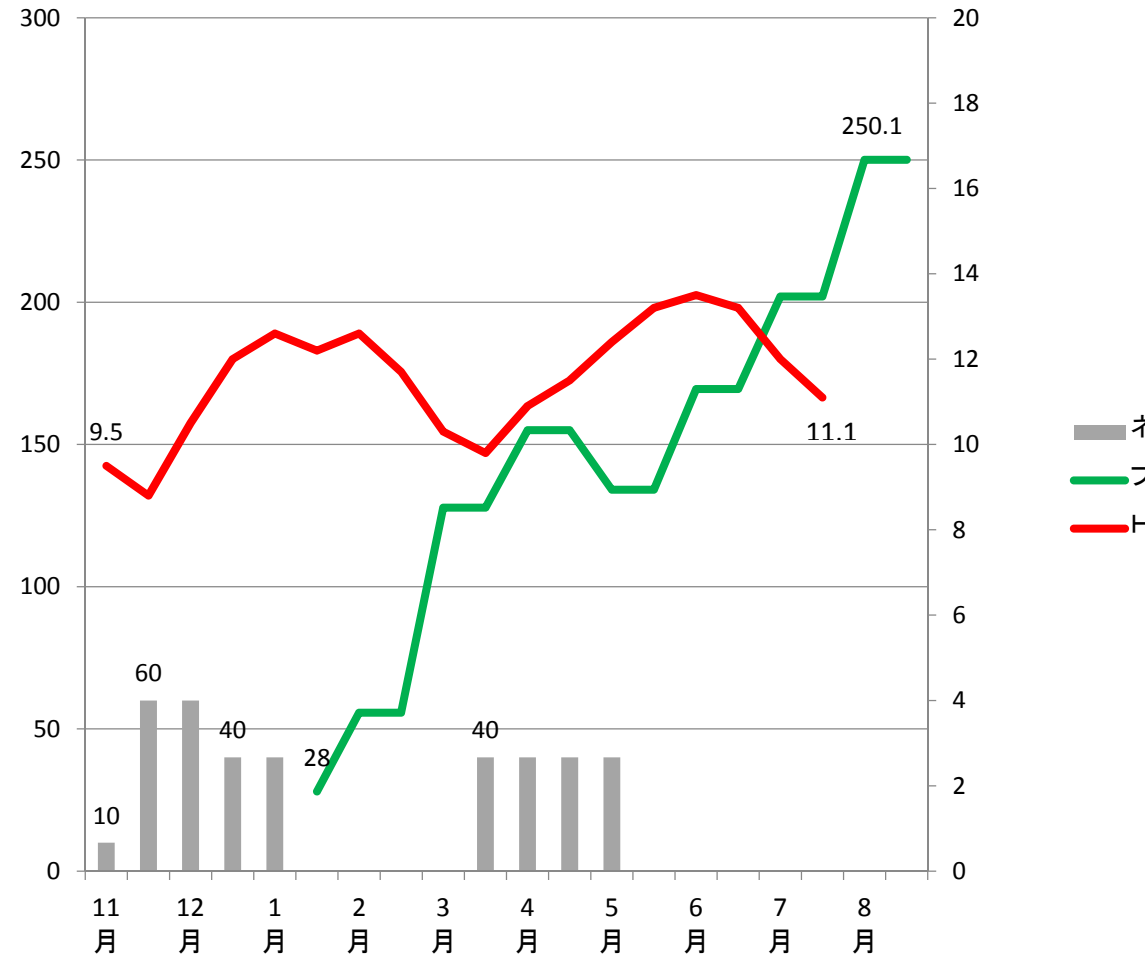
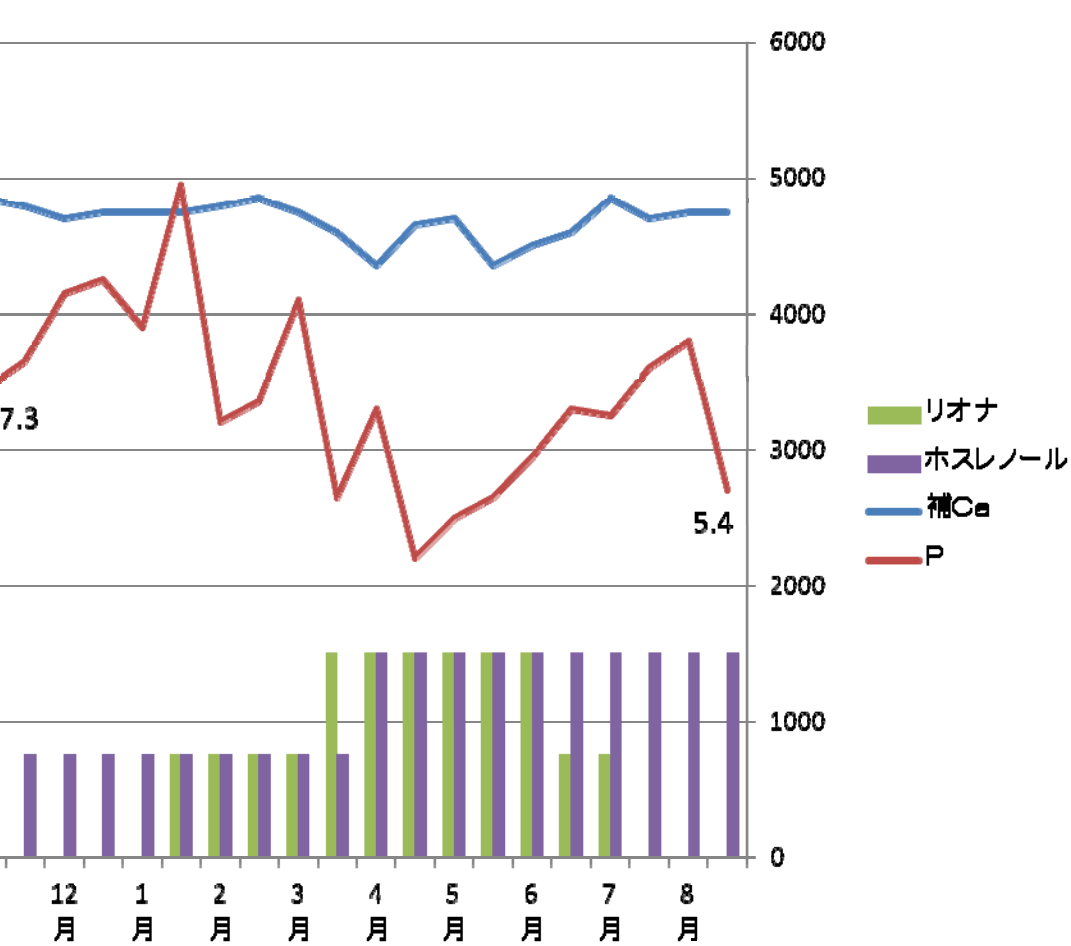
# 症例2

69歳男性 原疾患：糖尿病性腎症 透析歴：11.9年



# 症例3

71歳 男性 原疾患：糖尿病性腎症 透析歴：6.7年



# 結果

フェン酸第二鉄の投与により

- ①血清P値を平均1.3mg/dL低下させた。
- ②フェリチン値を54.7ng/mL→105.7ng/mLと有意に増加させた。
- ③ヘモグロビンは11.1g/dL→11.6g/dLと増加した。
- ④鉄剤を投与することなく、ダルベポエチンアルファの27名の平均投与量は10カ月後には23.6  $\mu$ g/W→8.7  $\mu$ g/Wへと63.1%減量することが出来た。

## 考察

クエン酸第二鉄は血清P値を有意に低下させ、フェリチンは有意に上昇させた。また、エリスロポエチン製剤の減量も期待できる。クエン酸第二鉄を透析患者に投与することにより、血清P値を低下させ、ダルベポエチンアルファの投与量を減少させることができた。

クエン酸第二鉄により常に鉄が十分に存在する状態を維持でき、ダルベポエチンアルファの造血作用が有効に働いた結果と考える。

---

# 日本透析医学会 COI 開示

筆頭発表者名： 中川 紀子

---

演題発表に関連し、開示すべきCOI 関係にある  
企業などはありません。